

第3回鎌倉踏査会・見どころ

「長寿寺」(ちょうじゅじ)

寺名は足利尊氏の法名にちなむ。1336年(建武三)、足利尊氏が自邸の跡地に創建。尊氏没後、子の足利基氏が堂宇を整えたという。春・秋の期間限定で公開されている(但し雨天閉門)。

「亀ヶ谷坂切通」(かめがやつざか きりどおし)

鎌倉七口と呼ばれる切通の一つで武蔵方面に通じていた要路。あまりの急坂に亀も引き返したことから亀返坂といわれ、それがいつからか亀ヶ谷坂となったと伝えられる。

「海蔵寺」(かいぞうじ)

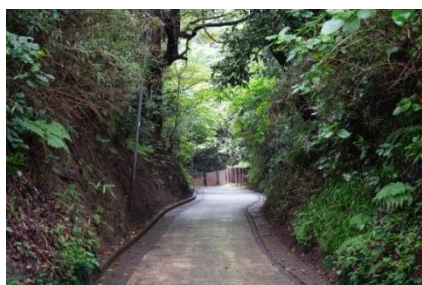
谷戸の奥にひそむ鎌倉らしい寺。花の寺としても有名で10月中旬は紫苑(シオン)が見頃。元は鎌倉幕府六代將軍宗尊(むねたか)親王の命により建立された七堂伽藍の寺があったが、鎌倉幕府滅亡とともに焼失。1394年(応永元)2代鎌倉公方足利氏満の命により上杉氏定が再建。

「仮粧坂切通」(けわいざか きりどおし)

かつては武蔵の国方面から鎌倉に入る上ノ道(武蔵路)の入口で、重要な交通・防衛の要所。距離は短いが急な坂である。新田義貞軍の主力はここを攻めたが固い守りを破れず、極楽寺坂に移った。

「源氏山公園」

山の麓の壽福寺付近にはかつて源氏の邸宅があり、源氏山(標高93m)と呼ばれるようになったという。公園は1966年(昭和41)に開園。源頼朝の鎌倉入り800年を記念して1980年(昭和55)に造立された頼朝の像が立っている。



(亀ヶ谷坂切通)



(海蔵寺)



(仮粧坂切通)

「銭洗弁財天宇賀福神社」(ぜにあらいべんざいてん うがふくじんじゃ)

源頼朝が人々を飢饉から救おうと祈ったところ、宇賀福神が夢枕に立ち、この湧水を教えたといわれる。北条時頼もこの神を信仰し、銭を洗って繁栄を祈ったと言われる。

「佐助稲荷神社」(さすけいなりじんじゃ)

当地にあった稲荷社の神霊が翁に姿を変え、源頼朝に挙兵を促し戦いを助けたという伝説があり、右兵衛権佐(うひょうえごんのすけ)という頼朝の官名から、佐殿(すけどの)を助けたの意でその稲荷を佐助稲荷と称し、それが地名になったとされる。

「壽福寺」(じゅふくじ)

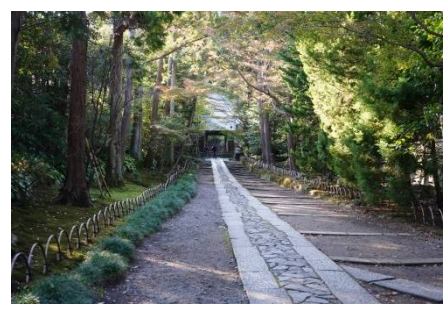
鎌倉五山第三位の寺。北条政子は栄西を京都から鎌倉に招いて1200年(正治二)源義朝(頼朝の父)の屋敷跡であったこの地を寄進。建設途中の火災などを経て1278年頃に寺観が整えられた。裏山のやぐらには北条政子と源実朝の墓と伝えられる五輪塔がある。中門に至る参道が美しい。



(銭洗弁財天)



(佐助稲荷)



(壽福寺)